

自然体験事業

冬のチャレンジキャンプ

1 ねらい

国立立山青少年自然の家周辺の冬の自然に親しむとともに、その中で思い切り雪上活動に取り組み、たくましい心身を培う。

2 期日

平成30年2月10日(土)～12日(月・祝日) 【2泊3日】

(ボランティア研修 平成30年1月13日(土)～14日(日) 【1泊2日】)

3 対象

小学校3年生・4年生

4 参加人数/募集人数/応募者数

22名/24名/79名

5 スタッフ・ボランティア

国立立山青少年自然の家職員 4名

法人ボランティア 13名

6 ボランティア研修

国立立山青少年自然の家職員

法人ボランティア 12名



	午前	午後	夜
1月13日 (土) 1日目	○打合せ ○フィールド下見	○テント設営 ○雪活動体験	○夜ごはんづくり(シチュー) ○キャンプファイヤー
1月14日 (日) 2日目	○テント片付け ○朝ごはんづくり(カートンドック) ○かんじき来拝山登山	○ふりかえり ○解散	

7 後援

富山・石川・新潟各県教育委員会、北日本新聞社、Net3

8 日程

	午前	午後	夜
2月10日 (土) 1日目	○はじめのつどい ○グループタイム	○基地づくり(テント泊準備) ○夜ごはんづくり(シチュー)	○ナイトハイク ○ふりかえり ※ 雪上テント泊
2月11日 (日) 2日目	○朝ごはんづくり(カートンドック) ○テント片付け ○雪遊び	○昼食(カップラーメン・おにぎり) ○かんじき練習	○キャンプファイヤー ○ふりかえり ※ 自然の家本館泊
2月12日 (月・祝) 3日目	○登山準備 ○かんじき来拝山登山	○グループタイム ○おわりのつどい	

9 参加者からの感想

- ナイトハイクで雪の結晶がいっぱい見つけることができうれしかったです。
- マカロニシチューで、じゃがいもやにんじんを、手を切らないように気を付けながら丁寧に切りました。じゃがいもの芽を取るときに、友達に上手だと言われてうれしかったです。
- 来拝山登山ではかんじきがうまく履けてうれしかったです。登るときは、滑ったり転んだりして、大変だったけれど、しっかり登れてよかったです。

- テント張りのときに、困っている友達を、まだ出会ったばかりなのに協力し合ったことがうれしかったです。
- かんじきで蝶々結びができないときに、リーダーがやり方を教えてくれて、頑張って結ぶことができるようになってうれしかったです。
- 来拝山を登るときに、みんなで協力したり、声を掛け合ったりして、登ることができました。頂上までは行けなかったけれど、景色がとてもきれいだったので、とてもうれしかったです。山から下るときに滑り台みたいに滑って降りたことが楽しかったです。

10 成果

- 事業実施時期を1月から2月に移したことにより、前年度のような雪不足に悩まされることはなく実施することができた。1月に実施した事前研修時から本番を想定したプログラムができ、充実した事前研修を経て、本番キャンプを実施することができた。
- 不動棟を中心にテント泊を実施したことにより、道具の運搬やトイレ、荷物置き場など参加者にとって活動しやすい環境で実施することができた。
- プログラムの内容にゆとりを持たせ、グループで考えて動く時間や、しおりを見て自分たちで考える時間を多く設けた。各グループが自主的に次の活動へ向けて準備を進めることができ、キャンプの初期段階からグループ形成に大きな効果があったのではないかとと思われる。

11 今後の課題

- 季節柄、流行病により、参加者・ボランティアともにキャンセルがあった。繰り上げ当選の連絡や、ボランティアを多めに参加していただくなど、欠席者が出たときの対応を考えておく必要がある。
- 2月の三連休に事業実施時期を移したことにより、各学校の行事と重なることがあった。申し込み後に行事があったということで連絡があったため、事業要項などに、申込み前に学校行事予定を確認する旨を追加すべきである。
- プログラムにゆとりを持たせた反面、挑戦する活動が少ないように感じられた。冬の立山の自然を生かし、小学校3・4年生に応じた、達成感・満足感をより得られるような活動を今後検討していく必要がある。
- 冬の自然体験のため、天候に左右されることが非常に多くなる。そのため、荒天時の予備案をいくつか考えておき、状況に応じて対応することが求められる。

